

1 年下巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
10月	おもいうかべながら よもう			
	くじらぐも 8時間（知・技①、読⑦） ◎かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ◎場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。（思・判・表C(1)エ） ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。（知・技(1)ク） ■読んで想像したことを伝え合う。	1～2 3～6 7～8	1 扉の詩を声に出して読み、目次を見て下巻の見通しをもつ。 2 学習の見通しをもつ。 ・題名から「くじらぐも」を想像することで、物語の様子を「おもいうかべながらよもう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。 3 教材文を読み、内容の大体を捉えて、様子を思い浮かべる。 ・挿絵を手がかりに想像を広げながら、教師の範読を聞き初発の感想を交流する。 ・様子を想像して、かぎ（「」）のところをどのように音読するか考える。 4 読んで想像したことを伝え合って共有する。 ・友達が想像したことを聞いて、思ったことを発表する。 5 話した言葉を、かぎ（「」）を使って書く。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる	【知・技】 ・かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使っている。（(1)ウ） ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。（(1)ク） 【思・判・表】「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。（C(1)エ） 【態】積極的に想像力を広げて物語を読み、これまでの学習をいかして想像したことを友達に伝えようとしている。
10月	まちがいを なおそう			
	2時間（書②） ◎文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正すことができる。（思・判・表B(1)エ） ○助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して、文や文章の中で使っている。（知・技(1)ウ） ■正しい表記で文章を書く。	1～2	1 これまでの学習を振り返る。 ・文章を読み返して間違いに気づいた経験や、日常的に文章を読み返す習慣がついているかを 2 文章の中から表記の間違いを見つけて直す。 ・P19の文章例を読み、文字の間違いを直す。 ・友達と交換し、確認し合う。 ・「は」「へ」「を」を使って文章を書き、読み直す。 ・友達と交換し、確認し合う。	【知・技】助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して、文や文章の中で使っている。（(1)ウ） 【思・判・表】「書くこと」において、文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正している。（B(1)エ） 【態】進んで文章を見直し、これまでの学習をいかして適切な表記に正そうとしている。
10月	くわしく かこう			
	しらせたいな、見せたいな 10時間（書⑩） ◎経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりすることができる。（思・判・表B(1)ア） ○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ○助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ○語と語や文と文との続き方に注意しながら書き表すことができる。（思・判・表B(1)ウ） ■見つけたことを記録して伝える。 ☆動植物の観察記録文を書く活動（生活科） ☆知らせたい対象を端末で撮影（ICT活用）	1 2～3 4～8 9～10	1 学習の見通しをもつ。 ・P20を読み、「学校にいる生きものや、学校で見つけたものをよく見て、いえのひとにしらせたいしょうをかこう」という学習課題を確認する。 ・教材文を読んで学習の流れを確かめ、知らせたいもののことを決め、絵や見つけたことをカードに記録する。 ・知らせたいものをよく見て、P21のカードを参考に、絵の周りに色や形、触った感じ、様子などを短い言葉で書く。 2 家の人に知らせたいものを決め、絵や見つけたことをカードに記録する。 ・知らせたいものをよく見て、P21のカードを参考に、絵の周りに色や形、触った感じ、様子などを短い言葉で書く。 3 見つけた事柄を文章に書く。 ・P21のカードとP22の作例を比べ、見つけたことをどのように文章に表すのかを考える。 ・短冊カードを用意するなどして、見つけた事柄を一つずつ文にする。 ・カードを並べ替えながら文章の順序を考える。 ・考えた順序に沿って文章を書く。 4 文章を声に出して読み返す。 ・句読点や「は」「へ」「を」が正しく使えているか推敲する。 5 書いた文章を読んでもらう。 ・家の人に読んでもらい、感想をもらう。 ・知らせたいことを伝える文章を書いて、家の人に読んでもらった感想をまとめる。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる	【知・技】 ・言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。（(1)ア） ・助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して、文や文章の中で使っている。（(1)ウ） 【思・判・表】 ・「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりしている。（B(1)ア） ・「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら書き表している。（B(1)ウ） 【態】知らせたいものを丁寧に観察し、学習の見通しをもって見つけたことを文章にして伝えようとしている。
10月	かん字の はなし			
	6時間（知・技③、書③） ◎第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ○語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■漢字を使った短文を書く。	1～2 3～4 5～6	1 教科書を読み、漢字の成り立ちを知る。 ・P24-25の挿絵を見て、何を表す絵が描いてあるかを確かめる。 ・絵と漢字を見比べて、漢字の成り立ちを知 2 教材文に出ている漢字の書き方を学び、書き順や字形に気をつけて練習する。 ・絵からできている漢字の意味を考える。 ・ある事柄を示す印からできている漢字の意味を考える。 3 例文にある絵を漢字に直し、ノートに視写す	【知・技】第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ） 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（B(1)ウ） 【態】積極的に漢字の成り立ちに興味をもち、学習課題に沿って漢字を使った短い文を書こうとしている。

1 年下巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
			4 学習した漢字を使って、短文を作る。 ・作った文を友達と読み合い、交流する。 ・互いに読み合い、漢字や文の書き方に間違いがないかを確かめる。 5 学習を振り返る。 ・漢字の成り立ちについて知ったことを振り返	
10月 ～ 11月	ことばを たのしもう 2時間（知・技②） ◎長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくことができる。（知・技(3)イ） ○音節と文字との関係に気づくとともに、発声や発音に注意して話すことができる。（知・技(1)イ） ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。（知・技(1)ク） ■詩や早口言葉を楽しむ。 ☆他にもおもしろい発音の詩を探す活動（図書館活用）	1 2	1 濁音・半濁音・促音・撥音の入った詩のおもしろさを味わいながら声に出して読む。 2 早口言葉を調子よく、正確に唱える。 3 他にもおもしろい発音の詩などを探して、声に出して読み合う。	【知・技】 ・音節と文字との関係に気づくとともに、発声や発音に注意して話している。（(1)イ） ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。（(1)ク） ・長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。（(3)イ） 【態】積極的に詩や早口言葉を楽しみ、これまでの学習や経験をいかして、発声や発音に気をつけながら声に出して読もうとしている。
11月	せつめいする 文しょうを よもう じどう車くらべ 7時間（読⑦） ◎事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。（思・判・表C(1)ア） ○事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ○文章の中の重要な語や文を考えて選り出すことができる。（思・判・表C(1)ウ） ■事物の仕組みを説明した文章を読み、分かったことをまとめる。	1 2～5 6 7	1 学習の見通しをもつ。 ・P30の挿絵を見て、それぞれの車がどんな仕事をするのか、そのためにどんなつくりになっているのか、考えを出し合う。 ・「いろいろな車のしごととつくりがどんなふうにしようかいされているかかんがえながら、せつめいする文しょうをよもう」という学習課題を確認する。 2 教材文を読む。 ・文章全体の構造を捉える。（問いと答えの形式・三つの事例を挙げて説明） ・各事例の「しごと」と「つくり」を見分け、二つの事柄の順序や、「そのために」でつながっていることを押さえる。 ・事例を比べ、車の「つくり」は、「しごと」によって変わることを押さえる。 3 説明のしかたについて確かめる。 ・身近な自動車から順に登場していたことを押さえる。 4 はしご車の「しごと」とそのための「つくり」についてまとめる。 5 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さ	【知・技】事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア） 【思・判・表】 ・「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。（C(1)ア） ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選り出している。（C(1)ウ） 【態】進んで説明における順序を考えながら読み、自分が説明するときにかきたいことを見つけようとしている。
11月	せつめいする 文しょうを かこう じどう車ずかんを つくろう 5時間（書⑤） ◎事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。（思・判・表B(1)イ） ○事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ■「じどう車しょうかいカード」を書く。 ☆自動車について書かれた図鑑等を選んで読む活動（図書館活用）	1 2～4 5	1 学習の見通しをもつ。 ・教材「じどう車くらべ」の学びを思い出す。 ・一人一人が「じどう車しょうかいカード」を書き、「クラスでまとめて、じどう車ずかんをつくろう」という学習課題を確認する。 2 「じどう車しょうかいカード」を作る。 ・図鑑などで知った自動車の中から紹介したい自動車を選ぶ。 ・説明の観点に着目しながら、「しごと」と「つくり」をノートに書く。 ・カードに文章を清書し、できたら、挿絵用の絵や写真のコピーを添える。 3 カードを交換して読み合う。 ・友達の作ったカードを読み、感想を伝え合う。 ・クラスで図鑑としてまとめる際、どんな順番で読むか、読む順番を決める。 4 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さ	【知・技】事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア） 【思・判・表】「書くこと」において、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。（B(1)イ） 【態】分かりやすい説明のしかたについて興味をもち、説明の順序に気をつけながら、見通しをもって自動車図鑑を作ろうとしている。
11月	かたかなを かこう 2時間（知・技①、書①） ◎片仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)イ）	1～2	1 身近なものの中で、片仮名で表記する語を出し 2 教科書にある片仮名で書く言葉をノートに書く。 3 片仮名で書く言葉を集め、短文を作る。	【知・技】片仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。（(1)ウ） 【思・判・表】「書くこと」において、語のまとまりや文章の中で使っている。

1 年下巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	技(1)ウ) ○語と語との続き方に注意しながら、書き表し方を工夫することができる。 (思・判・表B(1)ウ) ■片仮名で書く言葉を集め、短文を書く。		4 作った短文を友達と交流する。	て、語と語との続き方に注意しながら、書き表し方を工夫している。 (B(1)ウ) 【態】片仮名の表記のしかたに気をつけながら、これまでの学習をいかして文の中で片仮名を使おうとして
11月	ともだちと はなして、おはなしを かこう どんな おはなしが できるかな 6時間(話・聞②、書④) ◎互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。 (思・判・表A(1)オ) ◎文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見つけることができる。(思・判・表B(1)オ) ○句読点の打ち方、かぎ(「 」)の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。(知・技(1)カ) ○話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。(思・判・表A(1)エ) ■友達と話したことを基にして物語を作る。	1 2～3 4～5 6	1 学習の見通しをもつ。 ・「どうぶつになったつもりでともだちとはなして、おはなしをつくろう」という学習課題を 2 P40～41の挿絵を参考に、登場人物を決める。 3 友達と役割を決めて、動物になったつもりで話をする。 ・友達と話したことをノートにメモする。 ・「たいせつ」で、友達の話を聞くときに気をつけることを確認する。 4 友達と話したことを基に、お話を考えて文にする。 ・P42を参考に、友達と話したことを会話の形にする。 5 書いたお話を読み合い、感想を交流する。 ・「たいせつ」で、交流の観点を確認する。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	【知・技】 ・句読点の打ち方、かぎ(「 」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。(1)ウ) ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。(1)カ) 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。(A(1)エ) ・「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつないでいる。(A(1)オ) ・「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見つけている。(B(1)オ) 【態】物語を完成させるという見通しをもち、進んで友達に質問し、お話を書こうとしている。
11月 ～ 12月	すきな ところを 見つけよう たぬきの 糸車 8時間(読⑧) ◎文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。 (思・判・表C(1)オ) ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。(知・技(1)カ) ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。 (知・技(1)ク) ○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。 (思・判・表C(1)エ) ■物語の好きなところを見つけて、そのわけを話し合う。	1 2～6 7～8	1 学習の見通しをもつ。 ・教師の範読を聞いて好きなところを見つけ、文章に線を引き。 ・挿絵を手がかりに、内容の大体を捉える。 ・「すきなところとそのりゆうをみんなにしらせよう」という学習課題を確認する。 2 場面ごとに様子を思い浮かべる。 ・「たぬき」や「おかみさん」と同じ動作を試してみる。 ・「たぬき」のしたことを確かめ、そのときの様子を思い浮かべる。 ・「おかみさん」の気持ちを想像する。 3 好きなところとそのわけを友達と話し合う。 4 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	【知・技】 ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。(1)カ) ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1)ク) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ) ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C(1)オ) 【態】場面の様子に進んで着目し、これまでの学習をいかして、好きなところとそのわけを考えようとしている。
12月	日づけと よう日 3時間(知・技①、書②) ◎第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ○身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。 (知・技(1)オ) ○語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■唱歌を作る。	1 2 3	1 日付歌を唱える。 ・日付歌に出てくる漢字の読み方を学び、日付歌を声に出して練習する。 ・日付歌に出てくる漢字の練習をする。 2 曜日歌を唱える。 ・曜日歌に出てくる漢字の読み方を学び、曜日歌を声に出して練習する。 ・曜日歌に出てくる漢字の練習をする。 3 自分の日付歌、曜日歌を作る。	【知・技】 ・第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ) ・身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。(1)オ) 【思・判・表】 【書くこと】において、語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【態】積極的に日付や曜日を表す漢字に関心をもち、これまでの学習をいかして自分でも唱歌を作ろうとして
12月	てがみを かこう てがみで しらせよう 6時間(書⑥) ◎丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れることができる。 (知・技(1)キ) ◎文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方に注意しながら、	1 2	1 学習の見通しをもつ。 ・手紙を書いたり、もらったりした経験を出し合う。 ・教材文を読み、「うれしかったことやたのしかったことを、てがみにかいてしらせよう」とい 2 誰にどんなことを知らせたいか考える。 ・相手と書く題材を決め、必要な事柄を集め	【知・技】丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れている。(1)キ) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き

1 年下巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	文との続き方を確かめたりすることができる。(思・判・表B(1)エ) ○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■伝えたいことを手紙に書く。 ☆お世話になった人に手紙を書く活動(生活科)	3～5 6	3 手紙を書く。 ・P58-59の作例を参考に、クラス全員で共通の相手に手紙を書く練習をする。 ・読み返して、書くときに気をつけることを意識して書いているかを確かめる。 ・自分がいちばん知らせたい相手に手紙を書く。 4 学習の振り返りをする。 ・手紙を書いた感想を交流する。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(B(1)ウ) ・「書くこと」において、文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。(B(1)エ) 【態】書いた文章を積極的に見直ししながら、これまでの学習をいかして、身近な人に手紙を書こうとしている。
12月	本は ともだち むかしばなしを よもう おかゆの おなべ 8時間(書④、読④) ◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。(知・技(3)エ) ○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ○文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。(思・判・表C(1)カ) ■昔話を読み、感想を伝え合う。 ☆いろいろな昔話を選んで読む活動(図書館活用)	1～2 3～5 6～8	1 学習の見通しをもつ。 ・知っている昔話や読んでみたい昔話を出し合う。 ・P60-61を見て、「いろいろなむかしばなしをよんで、ともだちに知らせよう」という学習課題を学ぶ。 2 カードの書き方を学習する。 ・「おかゆの おなべ」を読む。 ・お話の好きなところやおもしろかったところなどを伝え合う。 ・P73を参考にカードの書き方を確認する。 3 読みたい昔話を選んで読み、カードを書く。 ・カードの書き方を再度確かめる。 4 友達のカードを読んで感想を伝え合う。 ・カードを読み、さらに物語を読んだり、カードに対する感想を書いたりする。 5 学習を振り返る。 ・昔話を読んで紹介カードを交流し合った学習から、学んだことや感じたことを振り返る。	【知・技】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(3)エ) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) ・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C(1)カ) 【態】積極的に世界の昔話を読み、これまでの学習をいかして感想をカードに書いて伝えようとしている。
1月	ことばの たいそう 各配当時間を15分ずつなどに分割して扱ってもよい。 なりきって よもう 2時間(読②) ◎場面の様子など、内容の大体を捉えることができる。(思・判・表C(1)イ) ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(知・技(1)ク) ☆お気に入りの詩を見つける活動(図書館活用) ☆工夫した読み方を端末で動画撮影し、友達と交流(ICT活用)	1～2	1 作者(かたつむり、にじ)の気持ちを想像しながら詩を音読する。 ・読む速度を変えたり、動作化したりして、いろいろな読み方を楽しむ。 2 詩集などからお気に入りの詩を選び、音読する。 ・声に出して詩集を読んだり、友達と気に入った詩を交流する。 3 学習を振り返る。	【知・技】語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1)ク) 【思・判・表】「読むこと」において、場面の様子など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ) 【態】進んで詩の内容を捉え、これまでの学習をいかして音読を楽しもうとしている。
	くわしく きこう 2時間(話・聞②) ◎身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使い、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ◎話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。(思・判・表A(1)エ) ○身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思・判・表A(1)ア) ■紹介を聞いて、質疑応答する。 ☆紹介したい本を選ぶ活動(図書館活用) ☆話し練習を動画で撮影(ICT活用)	1～2	1 自分の好きな本を友達に紹介する。 ・教師の本の紹介を聞き、これからの学習に見通しをもつ。 ・どの本を友達に紹介するか決める。 ・知りたいことを考えながら聞き、もつと知りたいことを質問する。 2 学習を振り返る。 ・本を紹介し合う活動の振り返りをし、これからも友達と好きなものを紹介し合って、友達のことをもつとよく知っていくように促す。	【知・技】身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使い、語彙を豊かにしている。(1)オ) 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。(A(1)エ) 【態】積極的に友達の話の聞き、学習の見通しをもって、質問や感想を述べようとしている。
	ことばで あそぼう 2時間(知・技②) ◎身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ○長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくことができる。(知・技(3)イ)	1～2	1 言葉遊びの仕組みを理解する。 ・P78-79を見て、言葉遊びのしかたを理解し、ノートに書く。 2 言葉遊びを楽しむ。 ・教科書を参考に自分で言葉遊びのルールを決め、言葉遊びの問題を作る。 3 問題を出し合う。 ・問題を出し合うことでさまざまなルールの言葉遊びを知り、継続して言葉遊びを続ける意欲をもつ。	【知・技】 ・身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。(1)オ) ・長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。(3)イ) 【態】積極的に身近なことを表す語句を使った言葉遊びを楽しみ、これまでの学習をいかして語彙を豊かにしようとしている。
1月	くらべて よもう			

1 年下巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	どうぶつの 赤ちゃん 10時間（読⑩） ◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ◎文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。（思・判・表C(1)オ） ◎文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。（思・判・表C(1)カ） ○読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。（知・技(3)エ） ■書かれていることを比べて読む。 ☆他の動物の赤ちゃんについて書かれた本を読む活動（図書館活用）	1～2 3～6 7～10	1 学習の見通しをもつ。 ・いろいろな動物の赤ちゃんの写真を見て、動物の赤ちゃんへの興味・関心をもつ。 ・「どうぶつの赤ちゃんについて、かかれていることをくらべながらようもう」という学習課題^{ようもう}について確認する。 2 教師の範読を聞く。 ・初めて知ったことや不思議に思ったことを話し合う。 3 ライオンとしまうまの赤ちゃんの様子や成長を比べながら読み取る。 ・「生まれたばかりのようす」「大きくなっていくようす」を観点ごとにまとめる。 ・お母さんとの違いや、成長過程での親子のつながりについて確認する。 ・どのような違いがあるのか、気づいたことを発表する。 4 他の動物の赤ちゃんについても違いを調べる。 ・P88-89の「もっと よもう」を読み、比べる視点を確認する。 ・他の動物の赤ちゃんについて書かれた本を読み、生まれたばかりの様子や大きくなっていく様子で気づいた違いを発表し合う。 5 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる	【知・技】 ・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア） ・読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。（(3)エ） 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。（C(1)オ） ・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。（C(1)カ） 【態】文章の内容を比べながら粘り強く読み、学習の見通しをもって、本から得たことを友達に知らせようとしている。
1 月	ことばって、おもしろいな ものの 名まえ 6時間（知・技④、話・聞②） ◎言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ○身近なことを表す語句の量を増し、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づくことができる。（知・技(1)オ） ○互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。（思・判・表A(1)オ） ■尋ねたり、応答したりする。	1 2～3 4～5 6	1 学習の見通しをもつ。 ・買い物をしたときの経験を出し合い、店での言葉のやり取りに関心をもつ。 ・P94-95を見て、「ものの名まえをあつめておみせやさんごっこをしよう」という学習課題^{おみせやさんごっこ}を確認する。 2 教材文を読み、物の名前には上位語と下位語があることを理解する。 ・教材文に出てくる物の名前を上位語と下位語に整理してノートに書く。 ・身の回りの物の名前を集め、上位語と下位語に分けてノートにまとめる。 ・集めた言葉を発表し合う。 3 「おみせやさんごっこ」の準備をする。 ・2で発表し合った身の回りの物の名前を参考にして、開きたいお店ごとにグループを作る。 ・上位語で看板やポスターを、下位語で品物カードを作る。 ・教科書を参考にして、グループごとに「お店の人」と「お客さん」の話し方を練習する。 4 「おみせやさんごっこ」をする。 ・「お店の人」と「お客さん」の言葉のやり取りを楽しむ。 5 学習を振り返る。	【知・技】 ・言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。（(1)ア） ・身近なことを表す語句の量を増し、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づいている。（(1)オ） 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつないでいる。（A(1)オ） 【態】積極的に言葉の上位語と下位語に関心をもち、学習の見通しをもって、言葉を集めて「おみせやさんごっこ」をしようとしている。
2 月	わらしべちょうじゃ 1時間（読①） ◎昔話の読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむことができる。（知・技(3)ア） ○文章を読んで感じたことを共有することができる。（思・判・表C(1)カ） ■昔話の読み聞かせを聞く。 ☆我が国の文化や生活に親しみ愛着をもたせる題材（道徳） ☆いろいろな昔話を読む活動（図書館活用）	1	1 知っている昔話を出し合う。 2 教科書の挿絵を見ながら「わらしべちょうじゃ」の読み聞かせを聞く。 3 おもしろかったところや、気に入ったところについて友達と感想を伝え合う。 ・P126を参考に、読み聞かせやその他の楽しみ方について話し合ってもよい。	【知・技】昔話の読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。（(3)ア） 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで感じたことを共有している。（C(1)カ） 【態】積極的に昔話の読み聞かせを楽しみ、これまでの学習をいかして内容や感想を共有しようとしている。
2 月	かたかなの かたち 3時間（知・技②、書①） ◎片仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ○語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■片仮名の言葉を使って文を書く。	1 2～3	1 平仮名と形の似ている片仮名や、似た形の片仮名を区別して書く。 ・一字ずつ形を確認しながらノートに書く。 ・P139-140の「ひらがなと かたかな」を見て、他にも似ている形の字を探してノートに書く。 2 間違えやすい片仮名を練習する。 ・P99を見て、間違えやすい文字・長音・拗音の書き方を理解し、形に気をつけてノートに書く。 3 片仮名で書く言葉を集める。 ・見つけた片仮名の言葉を使って文を書く。 4 書いた文を発表し合う。	【知・技】片仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。（(1)ウ） 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（B(1)ウ） 【態】進んで形の似ている字を探し、これまでの学習をいかして片仮名の言葉を使った文を書くようとしている。

1 年下巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
2月	ことばあそびをつくろう 6時間（知・技①、書⑤） ◎身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ○長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくことができる。（知・技(3)イ） ○語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■言葉遊びを作る。	1 2 3～5 6	1 学習の見通しをもつ。 ・教材文を見て、「ことばクイズをつくって、みんなできあおう」という学習課題を理解する。 2 P100-101の□にあてはまる言葉を考える。 ・「いる」「ある」をヒントにして言葉を見つける。 3 「ことばクイズ」を作る。 ・（ ）の言葉の中に隠れている□の言葉を考える。 ・グループで相談し合う。 ・「いる」「ある」の使い分けに注意しながらクイズカードを作る。 4 クイズ大会をする。 ・グループごとにブースを作り、クイズを出し合う。 5 学習を振り返る。	【知・技】 ・身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにしている。（(1)オ） ・長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。（(3)イ） 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（B(1)ウ） 【態】身近なことを表す語句に積極的に関心を持ち、これまでの学習をいかして言葉遊びを楽しもうとしている。
2月	ふたりで かんがえよう これは、なんでしょう 4時間（話・聞④） ◎互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。（思・判・表A(1)オ） ○事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ○身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（思・判・表A(1)ア） ■二人で相談し、考えをまとめる。	1 2～3 4	1 学習の見通しをもつ。 ・教師から問題を聞いたり、教材文を読んだりして、クイズの大まかなルールを把握する。 ・「ふたりでmondaiをかんがえて、クイズたいていしよう」という学習課題を確認する。 2 二人組を作り、クイズの問題を考える。 ・問題にするものを決める。 ・決めたものの特徴（色や形、働き、様子など）をノートに書き出す。 3 問題の出し方を話し合う。 ・動画を見て問題の出し方を確かめ、話し合いのしかたを学ぶ。 ・書き出したことをどのような順番で言うのかを決め、練習する。 4 「これは、なんでしょう」クイズ大会をする。 ・二人組で出題したり、答えたりする。 ・解答者は、出題者の二人に問題の出し方について感想を伝える。 5 学習を振り返る。 ・二人で感想を出し合い、話し合うときにどのようなことを大切か、気づいたことを出し合う。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「おはなしでよんでかんじたことをはなそう」	【知・技】事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア） 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（A(1)ア） ・「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつないでいる。（A(1)オ） 【態】粘り強く二人で話し合い、学習課題に沿って協力してクイズを作ろうとしている。
2月 ～ 3月	よんで かんじた ことを はなそう ずうっと、ずうっと、大すぎだよ 8時間（読⑧） ◎文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。（思・判・表C(1)カ） ○事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ○文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。（思・判・表C(1)オ） ■読んで感じたことを伝え合う。 ☆生命を尊重する心を育てる題材（道徳）	1 2 3～4 5～7 8	1 学習の見通しをもつ。 ・家でペットを飼っている児童に、ペットとの関わりを紹介してもらおう。 ・「おはなしをよんでかんじたことをはなそう」という学習課題を確認する。 2 お話を読んで思ったことを話す。 ・教師の範読を聞いて、「いいな」「すきだな」「どうしてかな」など、心に残ったことを出し合う。 ・出し合った感想をもとに、みんなで話し合い、感想を共有しよう。 3 お話の筋を押さえる。 ・「エルフ」がどんなふうにならなかっていったか確かめる。 ・「ぼく」が、「エルフ」のことが大好きだと分かるところを見つける。 4 学習計画に沿って話し合う。 ・2で決めた話し合いのたいことについて、考えを出し合う。 ・「ぼく」が、なぜ「となりの子」から子犬をもらわなかったのかを、自分に引きつけて考える。 ・このお話を読んで、最も心に残ったことを友達に話そう。 5 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力をおさえる。	【知・技】事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア） 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。（C(1)オ） ・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。（C(1)カ） 【態】友達のかえや感想を積極的に知ろうとし、学習の見通しをもって、読んで感じたことを伝え合おうとしている。
3月	にて いる かん字 3時間（知・技②、書①） ◎第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ・語と語との続き方に注意しながら、文を書き表すことができる。（思・判・表R(1)ウ）	1 2	1 似ているところに気をつけて漢字を書く。 ・P120の漢字を見比べ、どこが似ているか出し合う。 ・似ているところと異なるところを確かめながら書き順に気をつけて漢字を書く。 ・P121の漢字を、書き順を確かめながらノートに書く。 2 書き順に気をつけて漢字を書く。 ・P121の漢字を、書き順を確かめながらノートに書く。	【知・技】第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ） 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら、文を書き表している。（B(1)ウ） 【態】進んで漢字の形に注意し、

1 年下巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	■似ている漢字を使って文を書く。	3	3 漢字を使って文を作る。	【思・判・表】これまでの学習をいかして楽しみながら文を書こうとしている。
3 月	おもい出して かこう いい こと いっぱい、一年生 10時間（書⑩） ◎自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。（思・判・表B(1)イ） ○敬体で書かれた文章に慣れることができる。（知・技(1)キ） ○経験したことから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ■経験したことを報告する文章を書く。 ☆生活を明るくする態度を育てる題材（道徳） ☆これまでの活動の様子の写真や動画を端末に保存している場合は、それらも参照（ICT活用）	1 2 3 4～8 9～10	1 学習の見直しをもつ。 ・写真やアルバムを見ながら1年間を振り返り、心に残っていることを話し合う。 ・教材文を読み、学習の手順を知る。 ・「おもいだして、『1年生のおもいで』をかこう」という学習課題を確認する。 2 1年間の出来事を振り返る。 ・P123を参考に、「がんばったこと」「できるようになったこと」などの観点から思い出す。 ・写真を見たり、家の人に聞いたりする。 3 書きたい事柄を選ぶ。 ・一つ一つの事柄を思い出し、書きたい内容を集めてメモを作る。 4 メモを基に、文章を書く。 ・P124の作例を読み、書き方を考える。 ・順番を考えながらメモを並べ替え、文章にする。 5 推敲する。 ・句読点や文字の間違いを見直す。 ・内容の分かりにくいところはないか、読み直 6 書いたものをまとめて冊子を作る。 ・時間順に並べるなど、構成を工夫する。 7 冊子を読み合う。 ・友達のおい出についての感想や、書き方のよかったところを伝え合う。 ・家の人に読んでもらい、感想をもらう。 8 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さ 9 1年間の学習を振り返り、頑張ったことを思い出してP136の表彰状に書く。 ・1年生の初めに書いた字と比べ、自分の成長を確認する。	【知・技】敬体で書かれた文章に慣れている。（(1)キ） 【思・判・表】 ・「書くこと」において、経験したことから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア） ・「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。（B(1)イ） 【態】事柄の順序に沿って構成を粘り強く考えながら、これまでの学習や経験をいかして1年生の思い出を伝える文章を書こうとしている。